

地元企業など訪問

豊橋西高校1年生がフィールドワーク

豊橋市牟呂町の県立豊橋西高校(藤城義光校長)は12日、地元企業などを訪問するフィールドワーク行事「さんしゃDay」を開いた。

参加したのは文系、国際関係、保系、理系、看護・医育・福祉関係、情報関係、スポーツ関係の1年生200

人。このうち市内二川町の積善病院には15人が参加した。ブラックライト照射で菌を確認する実験やPP E(個人用防護具)の試着、酸素飽和度を測定するサチュレーションモニター体験などを行った後、スライドボードやクランクバス(浴槽)などを見学。職下(えんげ)障害者のためのところみ茶も試飲した。

幸ではなく、多くの人の支えの中で生活するのも1つの幸せだと気づいた」と話した。松井然さんは、「看護を与える人も受ける人も、安全であるように考えられている医療の質の高さを感じた」と感想を話した。

高校ではこの日、総合学科1年生の「産業社会と人間」の授業として開いた。

1年生が8グループに分かれて積善病院のほか、地元企業や幼稚園、図書館などを訪問した。

(原田ひとみ)



ブラックライト照射をして手洗い体験(積善病院提供)



スライドボードでベッドに移動させる(同)

座学では「病院の種類とそこで働く職種」看護師・介護士を目指す方のライフプラン」として、病院側から大学や看護専門学校進学後に就職する方法や就職しながら准看護学校に進学する方法など、詳しく説明を受けた。

佐伯鈴子看護部長は「厳しさの中にもやりがいのある仕事。やればやるほど効果が見え、感謝されるのがモチベーションになる。1人でも多くの人々が医療従事者を目指してくれるとうれしい」と呼びかけた。

参加した一人、安形瑠華さんは「病気の祖父の介護をしており、看護師を目指している。病人は不